

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市アートセンター	評価対象年度	平成26年度
事業者名	川崎市文化財団グループ ・代表者 公益財団法人川崎市文化財団 理事長 北條秀衛 川崎市川崎区駅前本町12番地1 ・構成員 学校法人 東成学園 (昭和音楽大学) 理事長 下八川 共祐 川崎市麻生区万福寺1丁目16番6号 学校法人 神奈川映像学園 (日本映画大学) 理事長 佐々木 正路 川崎市麻生区万福寺1丁目16番30号	評価者	市民文化室長
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日	所管課	市民・子ども局市民文化室

2. 事業実績

※□内は平成25年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日)実績 ※●は新規事項、○は継続事項

利用実績	平成26年度総入場者数(小劇場+映像館):82,340人[67,616人] 1 アルテリオ小劇場 入場者数 17,116人[17,925人] 利用日数実績日 230日[220日] 日数別利用率 66.3%[63.4%] 公演等回数 135回[136回] 主催事業10事業 58公演[11事業 59公演]、 共催事業1事業 3公演[13事業 27公演]、提携事業1事業 2公演[1事業 2公演]、 ワークショップ等事業2事業 12回[2事業 10回]、貸館37団体、72回[31団体 48回] 2 アルテリオ映像館 入場者数 65,224人[49,691人] 利用日数実績 319日[317日] 日数別利用率 91.9%[91.6%] 上映事業 145作品 1,460回上映[129作品 1,489回上映]、 トーク等開催事業8回[14回]、バリアフリー上映47回[27回]、貸館10回[5回]、 アルテリオ・シネマ会員事業(平成27年3月31日現在 2,782人)[前年度から596人の増加] 3 その他貸館件数(1日3区分別) 楽屋651回[615回]、映像編集室・録音室414回[映像編集室54回、録音室198回]、工房579回[477回]、研修室627回[585回]
収支実績	1 26年度収入決算 248,319千円 [231,962千円] 内訳 事業収入 75,003千円[63,484千円]、施設利用料収入 10,327千円[7,495千円]、補助金等収入 2,300千円[3,395千円]、指定管理料収入 148,432千円[147,593千円]、その他収入 12,257千円[9,995千円] 2 26年度支出決算 249,186千円[216,406千円] 内訳 事業活動支出 245,343千円 投資活動支出 3,843千円 3 当期収支差額 ▲867千円[15,566千円] 4 前期繰越額 31,795千円[16,240千円] 5 次期繰越額 30,928千円[31,795千円]
サービス向上の取組	(仕様書にはない指定管理者によるサービス改善・向上の取組) 【地域特性を活かした運営】 ○劇場関係では、地域劇場(リージョナルシアター)を目指した取組みとして多彩な公演を行うとともに、青少年等育成手法として演劇ワークショップ及びミュージカルワークショップ事業を実施した。 ●市民参加型の地域劇団「劇団わが町」の取組みとして、多摩市民館と麻生市民館(麻生区文化協会30周年記念公演として実施)にて市内巡回公演を実施した。 ○映画関係では、日本映画大学スタッフが中心で昭和音楽大学が全面的に撮影協力した「物置のピアノ」や川崎の小川町を舞台にした「小川町セレナーデ」など市内撮影作品を積極的に上映した。また、毎日映画コンクールとの連携により、ミネート作品の上映を行った。 【バリアフリー上映会】 ○視覚障害者や乳児を持つ親への対応としてバリアフリー上映を22作品47回実施した。(うち保育付上映14作品24回実施) 【シネマサロンコンサート】 ○映画の魅力を発信するための映画音楽を題材とした無料のコンサート「シネマサロンコンサート」を3Fコラボレーションスペースにて2回実施した(麻生芸術のまちコンサート実行委員会との協力事業)。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	12	4 (H25 4) (H24 4)	9.6
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	5 (H25 4) (H24 4)	8
当初の事業目的を達成することができたか					
<p>(評価の理由)</p> <p>【利用者満足度】</p> <p>●定期的に実施している「しんゆり寄席(月1回)及び「アート講座(10回)でのアンケート調査の結果、寄席では「非常によかった」と「よかった」が93%、講座では「大変満足」と「やや満足」が90.9%と、高い満足度が得られている。ボランティアを中心とした運営面でも94%と86.1%の満足度となっており、アンケートでの意見・要望に対しても今後の運営等に反映できるよう努めている。</p> <p>○満足度調査は小劇場の来場者へのアンケートや、館内への意見箱の常設、映像館での自由意見ノートの常設等により利用者ニーズを把握しており、概ね好評の意見が多い。映像館では、把握した利用者ニーズや、鑑賞者が多かった作品などについてアンコール上映を実施している。</p> <p>○事業収益の中から施設設備の修繕や更新などを実施しており、劇場階段ノンスリップ交換・排気ファン整備・CO2濃度測定・照明LED化など利用者にとって快適な施設となるよう努めているため、施設関連の苦情や意見はなく、入場者数も増加を続けており、利用者の満足度の向上に寄与していると判断できる。</p> <p>【事業成果】</p> <p>●映像館のシネマ会員数が大幅増となり、映像館の入場者数も過去最高となった(対前年度比較15,533人の増)。これは、シネマ会員のうち、県外が増えていることなどからアートセンターの認知度がさらに高まったことや、上映作品の選定において、市民ニーズを把握したうえで、作品選定委員会と連携し、適時的確に選考したことで、市民の関心が高い上映につながったことなどによるものと考ええる。</p> <p>●市民参加型の地域劇団「劇団わが町」による市内巡回公演の実施は、アートセンターの魅力をより広く発信する取組であり、麻生市民館での公演は文化協会30周年記念公演として実施され、地域の団体との連携が図られたものであり、地域における舞台芸術の普及やアートセンターの認知度の向上につながったものと評価できる。稽古では青少年を含む劇団員が、作品を演じるだけではなく作品を作るという部分に大きく関わり、創造的な活動と交流が活発に行われており、未来の文化芸術を担う青少年の創造性と豊かな感性を育むという、アートセンターの運営方針「育てる」にも合致した取組と考える。</p> <p>●小劇場の貸館では、第2期指定管理者グループのネットワークを生かし、主催公演の稽古を音楽大学で実施することにより、貸館に充てられる日数を確保した結果、貸館件数が前年度比で24回増となり、収入の増加にも繋がった。</p> <p>●録音室・映像編集室の貸館では、事業収益の中から6月に設備の更新(新たなパソコンと新たな編集機器の導入)を行い、朗読や音訳団体の利用が増加し、貸館件数は前年度比で162回の増となった。専門性が高い設備が備えられていることから、陳腐化しないよう機器のバージョンアップを行い、利用率向上に努めた結果が利用件数の増加に繋がっているものと考ええる。</p> <p>●研修室の貸館は、定員が少ないものの、過去最高となり、対前年度比で42回の増となった。また、工房についても前年度比で大幅な増加となった。</p>					
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (H25 4) (H24 3)	6.4
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	4 (H25 4) (H24 4)	4.8
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	3 (H25 3) (H24 3)	3.6
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					
<p>(評価の理由)</p> <p>【効率的・効果的な支出】</p> <p>○小劇場での主催公演やジャズの定期公演では指定管理者構成員である音楽大学の講師や卒業生などの人的資源を活用し、質の高い公演を実現することができていること、また、寄席の定期公演では地元を含む周辺地域の落語会とのネットワークにより効果的な広報ができていることから、第2期指定管理者グループや周辺地域とのネットワークを活かし、効率的・効果的な支出ができていているものと考ええる。</p> <p>○事業経費が昨年度より増加している理由は、映画上映事業において入場者数増による配給会社への上映素材賃借料の増加が主なものであるが、賃借料が興行収入の折半等で決定されているため、入場者数の増加に応じて支出も増加するが適正な支出と考える。</p> <p>【収入の確保】</p> <p>●小劇場・録音室・映像編集室・研修室等の施設利用の増加により、事業収入は過去最高となった。(約10,326千円)</p> <p>●アルテリオ・シネマ会員事業の会員数が前年度と比較して596人増加し、前年度対比の増加数が過去最高となった。596人のうち214人が東京都を主とする県外居住者で、県外居住者の割合も過去最高となっており、事業収入の確保につながっている。</p> <p>○映像館については、作品の選定について世界各国の映画賞受賞作品などの良質な作品や地元ゆかりのある作品など、多様なジャンルの作品を提供することで、昨年に続き入場者の大幅な増加につながっており、昨年度に引き続き目標を上回る収益を上げた。</p> <p>【適切な金銭管理・会計手続】</p> <p>○会計手続は会計事務所のアドバイスを受けながら適正に処理されており、金銭管理は適切なチェック体制により厳格に管理している。</p>					

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	公演等の自主事業企画が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (H25 4) (H24 4)	9.6	
		貸館事業について基本方針に基づいて適切に提供されたか				
		アートセンターの基本理念等に基づき、地域と連携したサービスが提供されたか				
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか				
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか				
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか				
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	4 (H25 4) (H24 4)	4.8	
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか				
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4 (H25 4) (H24 4)	4.8	
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
	(評価の理由)					
	【適切なサービスの提供】					
	●小劇場の貸館では、第2期指定管理者グループのネットワークを生かし、主催公演の稽古を音楽大学で実施することにより、貸館日数の拡大を図った。(貸館事業)					
●アルテリオ・シネマ会員数は前年度対比の増加数が過去最高となり、併せて東京都など県外居住者の増加数も過去最高数となっていることから、市内や県内はもとより、施設の認知度が広がりがつある。こうした会員事業や会員価格等各種割引制度を実施し、引き続き、新規・リピーターの確保に努めた。(付加サービス)						
●「アルテリッカ・しんゆり」では初の試みとして、アルテリッカの公演チケット半券でアートセンター映像館を含む市内文化施設の観覧料等が割引になるサービス及び、市内文化施設の入園券等半券でアートセンター映像館が割引になるサービスを実施した。(付加サービス)						
○新百合ヶ丘駅周辺の文化芸術施設が協働して開催する芸術イベント「アルテリッカ・しんゆり」で、主催者の一員として事務局を担うほか、KAWASAKIしんゆり映画祭のメイン会場として共催するなど、地域と連携した芸術のまちづくりを推進した。また、チラシ配りや当日の運営等において地域のボランティアスタッフを活用し、「しんゆり寄席」、「アート講座」のアンケート結果からもボランティアスタッフの対応は満足度の高いものとなっており、適切なサービスを提供できた。(地域との連携)						
○小規模施設の特徴を活かしたサービスとして、映画関係では、バリアフリー上映や保育付き上映、映画関係者によるトークなどを実施することで、多様な方への映画鑑賞の機会の提供及び芸術文化に対する理解や興味を深める機会の提供ができた。また、劇場関係では、ホームページでのチケット販売(小劇場の主催等公演チケット)を実施し、利用者のサービス向上が図られた。(利用促進)						
○シネマニュース、チラシ等の各種媒体を、市内公共施設、町内会、新聞折込、劇場・映画館、大学、各事業の主なターゲット層、近隣市町村等へ適宜配布するなど、入場者数の増加につなげた。ホームページを活用した広報を積極的に行うことで、利便性と認知度を向上させた。麻生区と連携し市政だより麻生区版を活用し、情報発信の充実を図った。(情報提供)						
○積極的に報道関係機関に情報提供を行い、各新聞の文化面や地方面、地域情報誌に記事が掲載されたことで、認知度向上につながった。(情報提供)						
【業務改善によるサービス向上】						
●利用率が低かった録音室・映像編集室への対策として、設備の更新(新たなパソコンと新たな編集機器の導入)を実施したことにより、録音室及び映像編集室の利用増加につながっている。						
○劇場関係では、主催公演に音楽大学の指導者や卒業生(ミュージカル科卒業生)を多数起用し、地域に根付いた作品となるよう意識し制作をするともに、講師陣をスタッフワークの中心に据え、音楽的に質の高い作品を制作するなど、指定管理者グループの強みを活かした公演を行った。						
○映像関係では映画大学から上映作品の選定委員会への参加や各種映像事業への助言などにより、各分野での専門的な参画による質の高いサービスの提供につながった。						
○新百合ヶ丘駅までの視覚障害者向け送迎やシネマサロンコンサートの実施など、身近なサービス改善に取り組んでいる。						
○週1回、館全体の運営会議を開催し、スタッフの間で現状把握、情報共有を行うとともに、劇場と映像館との連携を高め、施設としての総合的なサービス向上につなげた。						
【利用者の意見・要望への対応】						
○参加者に対するアンケートをほぼ全事業で実施するとともに、設備利用面でも意見・要望の収集に努めた。また、映像館ではリクエスト・アンコール上映作品の募集を継続して行い、利用者ニーズを反映させる取組がなされている。						
○これまでの取り組みで施設の改善に取り組んできたこともあり、設備的な意見や苦情はほぼなくなっているが、利用者目線に立ち、劇場階段ノンスリップの交換・コラボレーションスペース照明LED化などの維持管理に取り組み、利用者満足度の向上に努めている。						
○バリアフリー上映後に利用者の直接の声を聞く機会を設け、サービスの改善に向けて取り組んでいる。						

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3 (H25 3) (H24 3)	3.6
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3 (H25 3) (H24 3)	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか	4	3 (H25 3) (H24 3)	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (H25 3) (H24 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	3 (H25 3) (H24 3)	1.2	
<p>(評価の理由)</p> <p>【連絡・連携体制】 ○週1回アートセンター職員による運営会議を開催する他、月1回市民文化室職員、指定管理者が参加して連絡調整会議を行い、各事業の進捗状況・結果の報告、業務改善の検討などを行い、アートセンター内及び所管課との連絡・連携が十分に図れている。定期的会議のほか、必要に応じて随時打合せを重ねており、内容は所管課へ文書等で報告され、情報の共有化を図っている。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ○スタッフが講座や研修に参加し、業務知識の習得やスキルアップに努めている。</p> <p>【安全・安心への取組】 ●機械警備用の監視カメラを増設し、セキュリティの向上を図った。 ○事故・災害発生時の対応マニュアルの役割分担等に基づき取り組んでいる。また、防災総合訓練を2回実施し、災害発生や急病人の発生に対する具体的な行動策を学習し、緊急時に備えた対策をとっている。</p> <p>【環境負荷の軽減】 ○環境負荷軽減型商品の調達を行い、また、電気・水道などのエネルギー使用量の削減に努め、環境に配慮した業務実施に努めている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (H25 4) (H24 4)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立つているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
<p>(評価の理由)</p> <p>【施設・設備の保守管理】 ●5年間の第2期指定管理期間において、設備の中長期修繕計画の策定に取り組むこととなっているが、必要最低限の保守管理にとどまることなく、将来に向けた効率的な維持管理や、利用者サービス等の観点から照明設備のLED化や機械警備用防犯カメラの増設など、計画的な設備の修繕・更新を進めている。</p> <p>【清掃業務、警備業務、外構・植栽管理、備品管理】 ○清掃業務、警備業務、植栽管理等の施設・設備の保守管理業務については専門業者に再委託することで適正に実施されており、備品管理についても、基本協定に基づき適切に管理されている。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	76.8	評価ランク	B
-------	------	-------	---

H25 75.2

H24 73.6

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市アートセンターは、芸術文化の創造、発信及び交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供し、もって市民の芸術文化の発展に寄与することを目的として設置した芸術文化施設であり、運営方針として、第1に「新しい芸術文化を創り発信する(創る)」こと、第2に「芸術文化の担い手を育てる(育てる)」こと、第3に「市民が質の高い芸術文化を楽しむ(楽しむ)」こと、第4に「ネットワーク型アートセンターコアとして芸術のまちづくりをリードする(ネットワークする)」こと、第5に「効果的・効率的運営をして、持続させる(効果的運営)」ことを掲げており、全体評価にあたっては、この運営方針ごとに評価を行う。

第1の(創る)については、市民参加の「劇団わが町」により市内巡回公演を実施することで活動の範囲を広げるとともに、新作「ザ・チェーホフ」の公演にあたっては劇団員が作品の創造の段階から関わることで、アートセンターからの芸術文化の創造・発信を進展させている。

第2の(育てる)については、上記の市民参加型公演の舞台稽古にあたり、青少年を含む劇団員が物語をつくるという新しいアプローチで舞台芸術を理解する機会となったことや、若年層を対象とした多種多様なワークショップ(小劇場では演劇、ミュージカル、映像館では映画タイムマシン、放課後シアターなど)を開催したことで、舞台芸術に親しみを持ってもらうための機会を提供することができている。

第3の(楽しむ)については、小劇場では寄席(終演後は出演者と参加者の交流会を毎回実施)やジャズの定期公演が昨年度に引き続き実施されており、気軽に楽しめる鑑賞事業の定着化を図っている。映像館では、世界各国の新作・名画・秀作を基本とした話題性の高い作品が上映されたとともに、市民と映画監督等のアーティストや美術館学芸員との交流、トーク等事業を実施するなど、市民が映画・映像芸術に対する理解を深めることを目的に、多くの良質な映画・映像プログラムを提供したことで、芸術文化に触れる機会や理解を深める機会などの発信ができた。コラボレーションスペースではシネマサロンコンサートを実施し、地元の方が気軽に音楽を楽しめる機会を提供するとともに、映画鑑賞へのきっかけづくりを提供した。

第4の(ネットワークする)については、「KAWASAKIしんゆり映画祭」ではメイン会場として映画祭事務局と連携し、「アルテリッカ・しんゆり」では、実行委員会の一員として、アルテリッカ事務局及び調整機能を担い、文化芸術のネットワークの拠点としての役割を果たした。また、アルテリッカの公演チケット半券で市内の文化施設入館料等が割引となる連携事業も初めて実施した。映画・映像関係では地元関連映画のアンコール上映や、川崎区のミューザ川崎で授賞式が行われた「毎日映画コンクール」のノミネート作品をタイムリーに上映するなど、時機を捉えた効果的な運営を行うことができた。

第5の(効果的運営)については、第2期指定管理者として新たに構成員となった音楽大学、映画大学とともに、地域に根差した運営を行いながら、各事業においては上映作品の選定や劇場公演の調整など、それぞれの強みを活かした取り組みを行った結果、集客効果の高い公演が多く入場者の増加につながった。また、繰越金については、将来の安定的な施設運営や利用者サービス等の観点から、設備の維持・補修・更新や必要な物品購入・などを行い、効率的・安定的な運営に向けた取り組みにつなげている。

以上のことから、平成26年度は、概ね適正に指定管理業務を実施することができたと考える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

○開館8年目となり、各種媒体を活用した広報や指定管理者グループの連携による貸館利用の増加など、川崎市北部や小田急沿線を中心として施設の認知度が広がりつつあり、館運営の質もよくなってきているが、個々の内容ではまだばらつきもあり、さらに効果的な事業を展開していく余地があることから、今後とも指定管理者グループの強みを最大限に活かすとともに、地域とのネットワーク等を図りながら多彩で魅力的な事業の推進に取り組むこと。

○劇場の利用については、貸館利用の面からは利用件数の増加に伴い利用料収入の増加につながっているが、全体として最近2年間は利用率が低下していることから、これまでの運営等を検証するとともに、劇場法等の趣旨やアートセンターの運営方針に即した効果的な事業を展開すること。

○録音室、映像編集室については、設備の更新を実施したことにより利用増加につながっているが、さらに利用者層にターゲットを絞った広報や専門性の高い設備を有する本施設の特性を踏まえた効果的・効率的な活用に向けて取り組むこと。

○利用者満足度について、アンケートの項目を見直すなど、利用者のニーズを把握し、効果的な事業展開を図ること。また、実施したアンケート調査について、迅速かつ的確な集計・分析を行い、施設運営に活かすこと。